

生誕130周年記念番組

ノーベル賞の源流 仁科芳雄博士

～次代を担う青少年に科学する心を育む～(仮)

12月5日(土) 午後1時～午後2時

昨年、リチウムイオン電池の開発に成功した吉野彰先生がノーベル化学賞を受賞した。ノーベル賞受賞を知らせるニュースを聞いて日本国民の誰もが、「すごい研究だ」と感心する…。

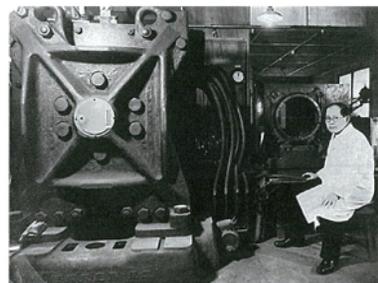
その源流をたどると一人の人物に行き着く。仁科芳雄博士だ。

日本人初のノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士に中間子論の論文を書けと後押ししたのは仁科博士。朝永振一郎博士も仁科研究室で指導を受けた一人。



© Nishina Memorial Foundation.

今世紀の日本の物理学賞受賞者の多くも仁科博士の流れを引いている。



理研跡地に保存されている、戦後最初に再建されたサイクロトロン磁石＝東京都文京区

番組では、ゆかりの地を訪ね、人間・仁科博士の姿、そして日本の科学教育の現状を取材。今の時代に伝えなかった想いを紐解くとともに、次世代の子供たちに科学の魅力や素晴らしさを伝えます。